

ミス

# 日産の開放特許活用

## 自動供給装置 樹脂部品用を開発

【横浜】ミス(川崎市高津区、酒井高雄社長、044・813・7530)は、日産自動車の開放特許を活用し、自動車生産ラインで使用するプラスチック部品を決まった数だけ自動で供給する装置「樹脂ファスナーカウンター」を開発した。生産ラインの作業効率向上と部品計数の正確性向上に寄与する。価格は19万8000円(消費税抜き)。2015年に発売した金属部品用の自動供給装置「パーツカウンター」と合わせ、年間200台の販売を目指す。

「樹脂ファスナーカウンター」は、二つのボケットが開いている円盤のようなプレート

が回転せず一定以上進むと反転する機構。反転したスプリングで部品を挟み込んで破損すること。排出口部分と部品

る。ステンレス製で重量は約6kg。装置の大きさは縦310mm×横155mm×奥行き306mm。プラスチックファスナーは、自動車のドアパネルやバンパーの固

定に使用する樹脂製の留め具。従来は作業員が手作業で段ボールや樹脂製の部品箱から取り出していた。ラインに流れてくる車種に応じて必要数が異なるため、過不足が生じるなど作業効率の面が課題だった。

同製品は、川崎市などが大企業の開放特許を中小企業の新製品開発に利用する「知的財産交流会」の成果。

▲パーツカウンター  
④と樹脂ファスナーカウンター

